

令和 2 年 7 月 13 日現在

機関番号：37104

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2019

課題番号：15K08828

研究課題名(和文) 内科診療所受診者における自殺予防に関する疫学研究

研究課題名(英文) Associated factors for depression with suicidal ideation among middle-aged primary care patients

研究代表者

藤枝 恵 (FUJIEDA, MEGUMI)

久留米大学・医学部・助教

研究者番号：80420735

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：内科診療所の初診、または6か月以上受診していない、35歳以上65歳未満の患者を研究対象とした。診察前に自記式調査票を使用して、性別、年齢、体重、生活習慣、基礎疾患、睡眠状況等についての情報を収集した。登録時と半年後にうつ状態および希死念慮についての評価を行った。多変量解析の手法により、多要因の影響を補正し解析したところ、睡眠障害を有する者では、希死念慮を伴うつつ状態の発症リスクが上昇することが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

内科診療所における診察で、睡眠障害が認められれば、睡眠状況の観察と定期的なうつ状態の評価により、希死念慮を伴うつつ状態の発症を予防できる可能性がある。睡眠障害はうつ病に比べ、自覚しやすく、患者自ら治療を求めることも多い。そのため、睡眠と希死念慮を伴うつつ状態との関連を示した本研究の社会的意義は大きい。

研究成果の概要(英文)：Signs of suicidal depression often go undetected in primary care settings.

This study explored predictive factors for depression with suicidal ideation in primary care patients of working age at 6 months after an initial clinic visit.

New patients aged 35-64 years were recruited from internal medicine clinics in Japan. Information about baseline characteristics was collected using self-administered and physician questionnaires. Depression with suicidal ideation was evaluated at enrollment and 6 months later. Multiple logistic regression analysis was conducted to calculate adjusted odds ratios for depression with suicidal ideation. Sleep status may help to predict depression with suicidal ideation in primary care settings.

研究分野：精神保健の疫学

キーワード：睡眠障害 自殺対策 希死念慮 臨床疫学

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

20年以上も前から内科ではうつ病やうつ状態が見逃されやすいことは指摘されていた。しかしながら、この状況はあまり改善されておらず、うつ病患者の診察に苦手意識を有する身体科の医師は約6割にも上る。あるメタアナリシスではプライマリ・ケア受診者の約2割がうつ病であり、このうち医師によりうつ病と診断されたのは約半数であった。厚生労働省の平成23年受療行動調査の概況によると、我が国の外来診療時間は全体の6割が10分未満、9割が20分未満である。このような短時間の診察で、うつ状態の患者を見逃さず、適切に専門医に紹介することは容易ではない。初診であれば、症状の評価はさらに難しい。

警察庁の発表によると、我が国の2014年の自殺者数は約25,000人であり、減少傾向に転じたとはいえ、毎年約2万人の命が自殺によって失われ続けている。こうした自殺者の多くは既遂前にプライマリ・ケア医を受診しており、その割合は既遂までの1年間で約75%、既遂直前の1か月間では約45%である。全国約6万の内科診療所の自殺対策における役割は、極めて大きいと考えられる。

そこで、どのような人が「希死念慮を伴ううつ状態」を発症しやすいかがわかれば、関係機関との連携を図り、何らかの対策を講じることができる。自殺については、生活環境、文化の影響も大きく、国、地域、対象集団によってリスク要因が異なる可能性がある。そのため、我が国の内科診療所受診者を対象とした研究が必要であるが、これまでのところほとんど調査されていない。

## 2. 研究の目的

我々は内科診療所の初診患者を対象に「希死念慮を伴ううつ状態」のリスク要因を検討した。

## 3. 研究の方法

### (1) 対象者

静岡県富士市の内科診療所3施設において、初診、または過去6ヶ月以上受診していない患者のうち、35歳から64歳を対象とした。受診者に順次、調査に関する説明を行い、調査への参加に同意した者を対象者として登録した。明らかな感染症の症状(発熱37.5以上)、明らかな外傷の所見、視覚障害または聴覚障害を有する者は、調査票の記入が困難であるため、あらかじめ登録から除外した。また、「希死念慮を伴ううつ状態」の初発と再発では、リスク要因が異なる可能性があるため、すでにうつ状態を発症している者、既往を有する者を研究対象から除いた。

### (2) 情報収集

対象者の登録は2011年5月10日から2012年5月24日に行った。登録後、医師の診察の前に自記式調査票による情報収集を行った。調査項目は、性別、年齢、身長、体重、飲酒量、喫煙、運動習慣、教育歴、職業、交替勤務、夜勤、残業、勤続年数、ライフイベント、婚姻状況、基礎疾患、入院歴、市販の睡眠薬の使用状況、睡眠状況、うつ状態、および希死念慮等である。さらに医療機関用調査票による情報収集も行った。調査項目は、主訴、内科的診断、処方内容等とし、医師が診察直後に記入した。診断への影響を防ぐため、調査票の配布と回収は各診療所の職員が担当し、医師が対象者の記入した調査票を見ることのないよう配慮した。

登録から6ヶ月後、対象者に自記式調査票を郵送し、返信用封筒により記入済みの調査票を回収した。調査項目は、登録から6ヶ月以内の心療内科または精神科の受診、うつ状態、および希死念慮等である。

### (3) 統計解析

各リスク要因の独立したリスクの大きさを求めるため、多変量解析の手法(logistic regression model)を用いて多要因の影響を補正し、オッズ比(OR)および95%信頼区間(95% CI)を算出した。なお、解析には、解析ソフトSAS9.4(SAS Institute Inc., Cary, NC, USA)を使用し、統計学的検定の有意水準は5%(両側検定)とした。

### (4) 倫理的配慮

本研究の実施にあたっては、久留米大学医療に関する倫理委員会の承認を得た。研究対象者は、書面により調査に関する説明を受けた後、研究への参加に文書にて同意した者とした。収集した情報はすべて数値化し、研究対象者個人を特定できないようにして解析に使用した。

## 4. 研究結果

後日提出予定

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Megumi Fujieda, Katsuhisa Uchida, Shinichiro Ikebe, Akihiro Kimura, Masashi Kimura, Toshiaki Watanabe, Hisako Sakamoto, Teruaki Matsumoto, Naohisa Uchimura
2. 発表標題 Risk factors for depression with suicidal ideation among middle-aged primary care patients in Japan
3. 学会等名 International Epidemiological Association (IEA) World Congress of Epidemiology (WCE2017) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤枝恵、内田勝久、池邊紳一郎、木村昭洋、木村雅司、渡邊俊明、坂本久子、松本晃明、内村直尚
2. 発表標題 内科診療所受診者を対象とした希死念慮を伴ううつ状態のリスク要因に関する研究 35歳以上65歳未満を対象として
3. 学会等名 福岡県医学会総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤枝恵、内田勝久、池邊紳一郎、木村昭洋、木村雅司、渡邊俊明、坂本久子、松本晃明、内村直尚
2. 発表標題 内科診療所受診者を対象とした希死念慮を伴ううつ状態のリスク要因に関する研究
3. 学会等名 日本睡眠学会定期学術集会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	内村 直尚  (Uchimura Naohisa)  (10248411)	久留米大学・医学部・教授    (37104)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	内田 勝久  (Uchida Katsuhisa)		
研究協力者	池邊 紳一郎  (Ikebe Shinichiro)		
研究協力者	木村 昭洋  (Kimura Akihiro)		
研究協力者	木村 雅司  (Kimura Masashi)		
研究協力者	渡邊 俊明  (Watanabe Toshiaki)		
研究協力者	坂本 久子  (Sakamoto Hisako)		
研究協力者	松本 晃明  (Matsumoto Teruaki)		